

## 薬剤科 DI ニュース

注射薬の配合変化について

配合変化は pH dependent の例が多いです。pHの移動による混濁、沈殿、結晶析出、着色などの外観変化が起こります。以下に配合変化しやすい薬剤を取り上げてみました。

## 酸性側の注射薬 (pH4.5 以下)

アネキセート (麻薬拮抗剤)  
アタラックス-P (抗不安剤)  
イノバン (カテコールアミン系薬剤)  
インデラル ( $\beta$  遮断剤)  
サクシン (筋弛緩剤)  
セファランチン (血液関連製剤)  
ドルミカム (催眠鎮静剤)  
ネオラミン 3B (ビタミン剤)  
ビスルボン (去痰剤)  
ペルサンチン (Ca 拮抗剤)  
ボスミン (カテコールアミン系薬剤)  
ホリゾン (抗不安剤)  
ランダ (抗悪性腫瘍剤)  
レペタン (非麻薬性鎮痛剤)  
など

## アルカリ側の注射薬 (pH7.5 以上)

5-FU (抗悪性腫瘍剤)  
アレビアチン (抗てんかん剤)  
イソゾール (全身麻酔剤)  
キロサイド (抗悪性腫瘍剤)  
ソルダクトン (利尿剤)  
ネオフィリン (気管支拡張剤)  
アシクロビン (抗ウイルス剤)  
フェノバル (抗てんかん剤)  
メイロン (中和剤)  
メソトレキセート (抗悪性腫瘍剤)  
ラシックス (利尿剤)  
ルネトロン (利尿剤)